NO. 2017・58 号
発行日：2017 年 10 月 6 日

検査のパレット

今回は急性腹症における腹部エコー検査についてお話します。

急性腹症とは？

急激に発症し、激しい腹痛を伴う多くの疾患の総称で、早急に診断・治療（多くは手術）を必要とします。原因としては、消化器疾患に限らず、婦人科疾患、泌尿器疾患なども含まれます。疼痛部位によって原因疾患を推測することができます。一部を表に示します。

心窩部痛	急性虫垂炎、急性膵炎、胃炎･潰瘍、潰瘍穿孔、急性胆嚢炎、胆石
右季肋部痛	急性･慢性胆嚢炎、胆石･総胆管結石、十二指腸潰瘍、巨大肝膿瘍、肝癌破裂
左季肋部痛	急性･慢性膵炎、胃潰瘍、胃穿孔
臍部痛	急性腸炎、急性虫垂炎、腸閉塞、腸重積、急性膵炎
側腹部痛	腎･尿管結石、腎盂炎、水腎症
右下腹部痛	急性虫垂炎、憩室炎、急性腸炎、右腎･尿管結石、卵管炎
左下腹部痛	潰瘍性大腸炎、虚血性大腸炎、急性腸炎、左腎･尿管結石、卵管炎
下腹部痛	急性腸炎、腸閉塞、潰瘍性大腸炎、急性膀胱炎、卵巣嚢腫茎捻転
腹部全体痛	急性腸炎、胃炎、潰瘍穿孔、急性膵炎
背部痛	急性･慢性膵炎、腎･尿管結石、腎盂炎、水腎症、大動脈解離、大動脈瘤破裂

どのように検査をしているの？

通常検査と同様に実施前に医師からの依頼目的や血液検査の結果を確認します。患者さんが入室後まず名前を確認します。その後、胸の下から腰あたりまで出して仰向けにベッドに寝て頂き、服が汚れないようにタオルをはさみます。患者さんとの会話が可能な場合には、「疼痛部位はどこか」、「どのような痛みなのか」等情報収集をしながら、上記の表に示した疼痛部位から推測できる疾患を念頭に置き、各臓器における炎症所見、腫瘤像の有無を確認します。また、腹腔内の出血や腹水貯留、リンパ節腫大についても観察して原因検索を行った後、日頃の検査手順を遵守して限られた検査時間内で腹部全体を観察します。

多くの患者さんはストレッチャーや車いすで来られます。車いすからベッドへの移動やお腹を出すことなど多くを看護師さんに手伝って頂いており、検査をスムーズに進めることができています。今後とも検査をスムーズに行う為、ご協力のほどよろしくお願い致します。

今後とも検査室をよろしくお願い致します。　　文責：関岡裕子　監修：石竹久仁